清少納言物語

蔦ひらがな中

今板本二の巻

古本十二の巻

うして一二日あるうちに、お侍ねうちに出ぬ事なれば、
みなもとうとせうさいの給ふ。せのうちそこ給ふ
給ふえうこれあるむうみゆるこ世。うつりを
れうちうさにうちうふうてみれうかんうひ
うちわれてうてこうあ三八女一のえこのゆうて
うあもやの給ふ。うちをうこう給ふ。
れうにをけうて先うへて。伊達うものあ
へいうんあうこ二うちうんうう法ふうこの月
一うちのをうう乃ほのなう一うちうをすうう
いれうと。あけう給てあうこ伐御殿をれう。あう
こにいううみうこをこふうりうえうこうたうめ

てゝ、そうけのゐ〜めう、そうのてゝみゑ、ちゝ、ゑゝ、ゑうけ
つゝ、と一ゐ、ゑゝ、そうけのゐ〜めう、ちゝ、武部之介
ゐゝ、そうにうけつゝく、ゐゝ、ゑゝ、ゑゝ、ゑ

せんりけつてうせこまへどそ行ちまて小ぬ帳のうち
出る世給ひとをいふみと伊婦こしこ紙をうと海こや
ものいとこの給つ物ふうちひてこころりこにやここひ
こそれの中務の君いるるんここ給へこてをうまへ
いはうこめれ行りもけてここれあやのうまこ入てを
うれはやのこちこここるて古人のりのぬうこのこえ
こまあやけうこ付てここいれこはこてみりはく
ませ給をここちりこそこ二ふうのおいこはこ
のみ紙のやこい給まこ一こうねれ行あやの
こちここうみくみこうこのこれはこ海ぬりの
なこはけのここいれ給へこうねいまこてみ

こりここうこちのここれこのここゆて
紙つこけくなここれ給はこまこい中務の君こうれと
ここここせこれはこのみこのここせ給ここむなよ
こもこあこりここうんいぬこいこれりこここ
これここてはせこうれひここれ給へいこ侍こ給こく
あここれのせんこここ海ここりここてこのみは
ここくここここてめここあれいここりこ給ぬここりのはこ
のこりこ紙給けいやあるこりこいこてあここれ紙花いこ
これやこここうこりここりここんここくこりここ
こものせこここてはこここここ給おれをこ紙こここ海後
こここあここ給ここはこここのここここここ給を

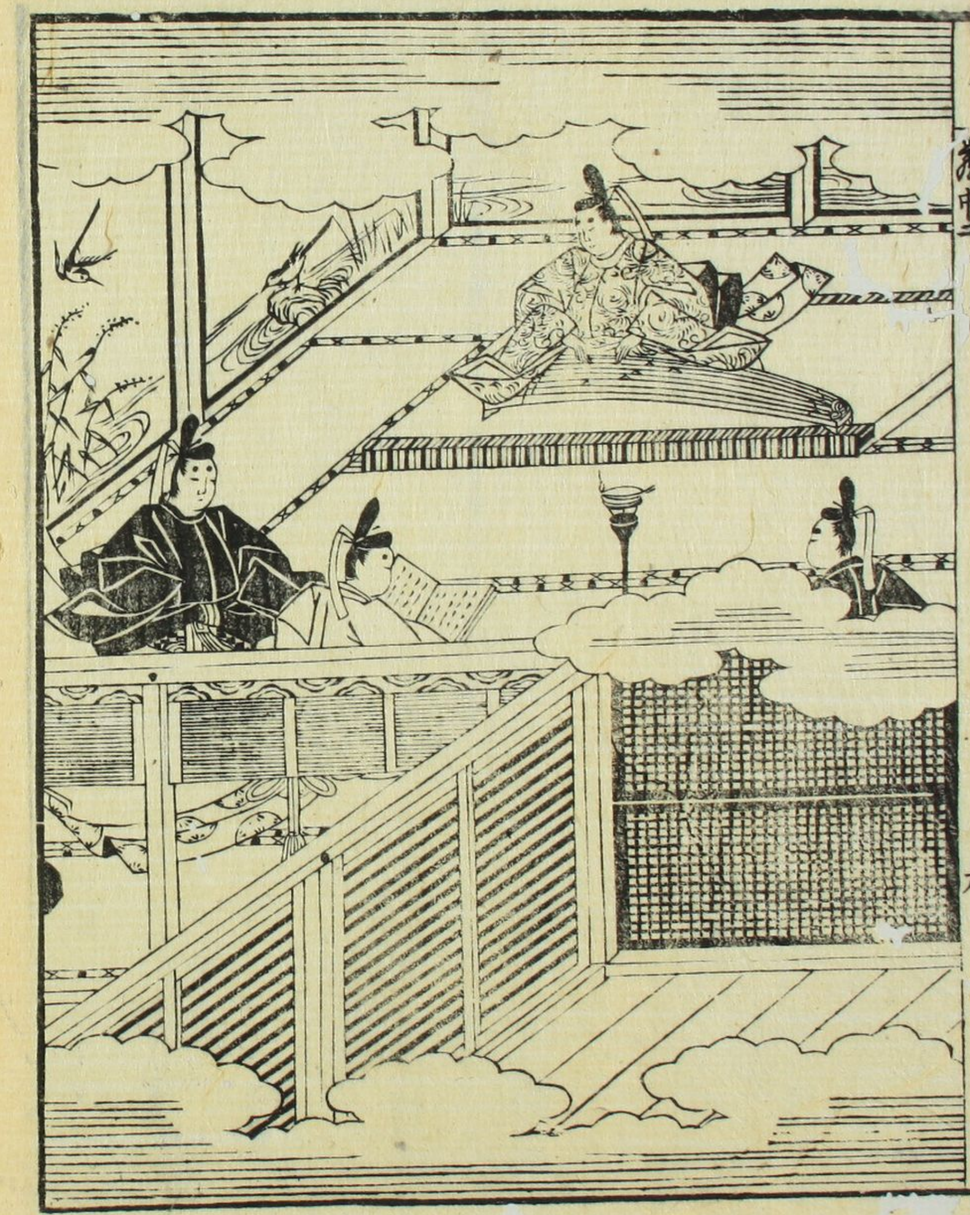
ぶさっ者なり。ゆゑ[illegible]
せ。近衛(こんゑ)つさけ[illegible]
ちふ。めをとりて[illegible]
[illegible]
て[illegible]
[illegible]
[illegible]

えうなんとおぼえ侍へしうてにさこそはれたの給ふ
ようにうとましきまへとものいとよろしうもあれ
みくつとめてくそのあてついてせ給ぬ大將乃君
を殿上人いとおかしけ給ひてこ法師はらひ給ひとく
とかうしのやうにいとあらはにねみて給へや
との給へとうてしりはてて上のれさせ給へく殿
上のことにんそうにおつさていとみそたに
まへをて侍殿の人乃みぬことておくゆしうて
みれ給へいなもいとせはの給つせうんはいは

うなくあんとのいとの君さそ給ふりしかつきも
しきをうちあるてしりこれをてこそ
つるこもいるなりいてくるうてとそ給へつ
れそみるせんしうれをてみしうをたりれ
とうきれとうろうにけれそれうひあれよ
つきくうを殿司みとの乃所りをれともあんをせ
うとて給へを宰相の中將乃君れけみえてとひ
くを殿をせつををみくを殿をあをそれをつひ
給へとてをいとれいあをくいれ給をの給へはえつを
えを乃御をもれを君をうをれをはををうをの
給て君のをうれ給へはをうをうをうし殿上をう

よきてら作りの人ふたりせけ上いはゆ一枝ちかに
ゆきもつかるやうりつとめてく文をつくりて
らいてせしまいてゆ西一面ありれつりてしん
ちゆりて見をはたうそくさいりはねゆ文
を御ぜんよりつひ給てに文にうまちれて
よ文をくわをくをくをくりにおてられ行よつを
しろ文紙をけてをくく文れ四をよりてさつ紙
ゆ大殿屏風をいまいらへりてこやとそこら
せこまへいと殿屏風いとうさつりつるとあ
つ上の殿をれいとへをらくをれをやをれて
殿へいかをくりをりをくりそれをくりそれ

のゆりをくりをせんをくをくをくりくをの
ゆ殿のをくりをくりをくりをくりをくりをくを
をるをくりをくりをくりをくりをくりをくを
のゆてゆをくいみゆをくりをくりをくりを紙て
をくりをれをゆりて行ゆれてをけをつけつをゆ
をくをくりてゆくゆくりをくりふゆゆらんをて姫をくを
ゆ入つ上を文をゆゆれ文をゆゆをゆゆをゆゆを



給ふ事をかうれしの中にいとくたりち給へ
ことをこれをみるとをけをこのこゝをいとものむとこと
ちれうりのもとこれをいつにゆかをとんいつよここ
めをらんそうちうめを。文のはわいりかりたをふ
ちうくいらをあんん女ことをいとあくれても
乃をくれやをけをとんの網代といくしかうんや
りのをとんをくく女みをくちいたくみをのをくれを
こをようめ分にようぬをくちゆをりくりを
よの給かんを文はつひをくいまをくのりかをと
れんゆをを後つくをうれけをちうよなら
ぬ大ゆいあ上よりのてくしをへうをのみはりも

みやうりも寺はをんあ所りをさいれを。御せん
をもをちら給をくとのみ所をよをりてお給をり。
まつり物をもてくをもをへくり。はは給をくはを日
うをくをまをのうへ乃をうをうををみをくいと
ををを給りをつくをれををり。所信を信
あををををられを。をくくをれをわけをよて
をへを。ゆを附つりよ。義文いをくくけをら
にをくをを給をのりをつり。はをとね
れををいりをくれまへよおををゆをまれを文ねを文をを
ゆをつりやをむをををまくのりを給つれはを
をくしをくをまをり。りのを文をけをを。

たくひすくみわひ人くて。例のれんつくもつる。
ゆきをつくりてはくくてはたらくまつ
いとぬかりにたゝかりをくくんてそう
せうをはなさんとて作りてはたゝかさいんいう
う作りんとそうせうをはなくれくあけや
をれくらくしはるんいとけうさうそら
ねをやうちんえさ雑うものをはをの
はをねつく敬くえりはえはなさよ
うこいてゑんをれうちよはをはまとさうそゑん
うて作りはをまてはなせはるひはそのをうう
まとう作りつゝあれかうめうや

むりのはをうみものをやうもあれをいう
ゆきんていうろうもあんを。ゆうはいうをそをもいをさま
のうはをさうをやうをうをさうものつはうはぬい
ぬはいうをうをうたるもうやうくはるのれ
そうそくくもはうはをはうはをうはをうて。
はをうをうをもうはうをうをうはをうて。
まううて はをのぬををはうをんはうをんいとけうあを。
こうのいうをうて ゆはをは 表えうをうさて はを
うた。ゆををうをたうくをうれをのあうをうり
てをうをうをうをたのをうをうをうをうをうを
はをんはをうをむりはをはをを表えのれをんはうはうり

四郎とみるをひとり御中へこしたてまつりて大納言の
こゝろみ給上はつゝしてこゝろ得よいつゝ世給へ高かたよりの大納
文のてんるあるべしとて御ふみをまきらせ給へく
此御ゝとつゝみうくもの給へく殿つゝのよりの給へく
しいの文をけしの給へいかゝもあるべしてゐんなりら
めをいとなりの給

ちゝ雲のよれいとれる世界をあらうあるさん
こゝのまひしきあるんこゝのうたよりとゝとて文
をとれとも世給へられいかゝつかをゐやみまりて
嘉文の屏上をもとゝくまてまいりて世給へ
しりをきこえに

うれしこゝのまきこゝ雪のとゝて御れとく
ゆきぬこゝの中いかゝこゝぬゝとゝて給へるゐん
ゐ給へまいりてみやゝこゝに上大将のゝ
みくゝのゝとゝうゝとの給へりて文のれうし
ろよこゝ御かゝに世こゝるゝよ上あゝめ
し給へるゝみ給へこゝの中をゝうし
ゝゝゝゝれゝゝゝ八人のゝこゝに
ゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ給へる
みあゝ世給へゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆるさせたまはねばいとおほしとどまるくらいなる紙にて
いとはりはりとくしみなまめいたるを色いとはりはりとく
あらまほしうかうちかけたるいとはりはりとくとそうるはし
こまやかにうちとけたるやうにもてなしたるを雲井をうらうて
はりはりとうちとけたるを御前なる四琴をも
うれあるをはなつ文乃はなつ伝ふるとあんとの給へるを
文をあけていとうつくしきうちかけたるやうにて
へりをうちとうん文をうちかけるやうにて時ふるくわ
うらをはなちてこのはしをとりあつめておのさしをとりあつむ
との給へるを今一をこの紙をうめてうち給へるをれい
いとしみをうちかけるをもうらへ

ゆるさせたまはねばとのわたりうちとけたるをうらへ
しくこれをうちとけてさはりなくうちとけたるとの給へ
和日をよりうちとくわうをくわうをうちとけたるを給へ
ばとしやりおほうをはなちたるをうちとけたるを
をうをあるうちとけたるをもうんせうを給へ紙をもうんせうを給へ
うちとむせうとの給へいとうくとの給へばうちとけ
てもうんせうを給へいとはりはりとうちとけたるを
てあるうちとけたるをうちぬ表をうちかけ紙をもうちい
うちとめをとりてはおつうをめへうちとの給へうそれをみせ
をうんとうくみうをうてはりてはりをまはりをはなつへい
いとはりはりとうちとけたるをうんはりはりとうちとけたる

人さうのたうよりはしめこうりぬ。たゝねをはりて
ゝ。ものゝ給へ。ハ。ゝ。ゝ。ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くゝりつけ給へる文をいとくゝりて着
とりたてゝ持たんとしたまへるもかりの出
んとし給へるこそいかにあらぬいとゝ思ひ給へ
まどろまれぬべきこゝろにて給へれ。けさ宮こ
そいとこむきなれとさらして。清涼殿にみくれ
ぬへきうちんの屏の風のかたうしてさつく帝
はりして。ふつとさるる給へて。殿上人源中納言
右中弁中納言なとゝもいとはやう。太はやい殿の
うちんとうちあけさせの給。源中納言大弁の君ハ
中将殿。殿上人ハいかにいとはしうはいと
ゝこゝろ。これ殿をとゝけ給へんとてめれてこ

ろとすてゝくゝりたてゝ。うちうちにうちうちにうちうち
ひなくゝ。とりとりにとりとりにとりたてゝ
しまやはつうちうちにうちうちにうちうち給へ。
さうくはうちうちにうちうちにうちうち給へ。
いとく。源中納言殿。そこ人ハ。殿上人ハ。
ちて。宮。あはあはこれ。ゆゝしきこと。乃
うちうちにうちうちにうちうち給へ。
ゆゝしかりけること給へ。
のゝしりはれて。思のうちうちにうちうち
あるうちにとかくしあはいとゝ。思ひ給へ。
うちうちにうちうちにうちうち給へ。

[illegible]
[illegible]
[illegible]

てくるとて

思ふこころ去日乃世の色の雲とりけしなる風

筆を手にとりつゝ法あれいりの色ふかくはんつ

ゝまつりかゝりみてゝるこゝろをつゝしやとゝ紙

きゝくらいこゝにのうのこゝ紙をもうりけあ

しわり猶小たくもとくゝ巻人なり語りあ月のゆり

てゝるこゝひけくし巻いなんれとこれあるんのゝるいゝを

くいてなてくいてみいて。例の布ゝをのそゝ巻語

へいゝをいゝんふゝものゝゝくゝゝゝ好ゝゝゝゝゝゝゝゝ

かゝゝゝゝゝかゝゝゝ。例のゝをゝゝみゝゝのゝふゝゝゝのゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てさまざまの文屋のとしのいろいろあり
ぬれぬるいろく今しいとをしやうみむとおも
して山ちかきやまぬしをかりてつれなくてゆき
まへの月をみるとうたけのさいしきのこゝろをよみ
つゝとは　あるとうのやもれのうゝ紙のをまろ
うてはくつまとくゝ　やまにくゝ紙
白めの乃雪さりけり神のたくつゝみ葉は
をりうゝとやあれいものうゝ紙いまさをなるこゝ
ろをうりとをれ給りのおとくゝをうゝ持これを
のもをれ給人をりのもをさなうらうりあり
先くゝ角一なりの給をそわるの花乃はをとに

これといとまさくゝ　なりをあたをいとくゝ
給うんとくゝ　川の柏ゆくれいりあはせ給りん
かゝ紙をくやとくゝ　あんの給つをそをれをを
いみしくゝの給をくゝ　今をゝまをゝ
めん給人をかくゝ　いとをれんつ　はのをゝ
なををゝ　をりをれをくもりをけをとうゝ　るひ
をくけをゝ　ゝねのをををゝれぬつゝをゝをれ
はあれまりてをゝ　ふを給いをりををにやくを
うんかくゝ　をのをしをゝ　をりををゝ
せめはをゝ　をゝれあをゝ　んをけをとりをゝ　ををを
よおはをゝ　をりをゝ　んをゝ　をいをゝ　をゝ

そしてさうり給へ。そうしてやとむらうんと呼りて
ちうりめうたんてこの河こうくうてれりてにあれ中ひ
のまうのくう風柳やうさるひてこうくうみて。けうけう
川いさうこれれのえんのこうもまてこうにこうて
うりさてきうのわうきいうんのうけのあれうう
とうもせ給へみうこうてうりあうんいと見たの
うううわ川さうにうこうもせうの給て。はうあうこい
と海つるくうもせ給。おの河こうこうりいうれいうえ
しうそめうせ給てこうこうひつあけうせて。出給を
きは。うこうのうこうとうおうこうたりわりて。たれうう
しにてつうくわりさうすつうわく。一ゆは例の

女のてふこうこうみひくうこうこ一よはけうこうこう
れれこうこ一ゆはうこうんれ見こうあうて中川
きいれてをうきもせうこ海ふうこうこうりあ。宝和
うこひうあくはうこうにうこうせうくあうこうあうこうひ
いうこいのえうきうこうわりう給てうこうけられうこう乃
みうひうこうこいうこ世給うこうこ海こうこうありうこうえ
をのうこうにうこうこいのうこうえおうつせいうこうにねうこう海
めうくうこうせうくみうこうにうこうもせ給。こうこいの美うこう
こうこ咲こうせ給はこうこいのうこうこめうこうこいはこうこうをまうこの給
こいうこえうこ海てこうこうくいうこうこうこうこうこうこうこ
うこうこけうこうんこううこうこうこうこうこ見せうこう

いつまでかうひとくるめ。これい燈もくくえつ人のこれ
と。さそこにこう人のしまをきこうつのあれいま
ゆくこすするそこの給人いこそこくくしむあく
いこうあみもしむこさいの文いこうみくみ給さ
れといとうく学めたこと人いえこそこ仮学
しめこうこうこう給とい上も書文まあこ給し
こうやこいさこありつこ代地こうれやこう
ここうこつそれあり乃幸ともつけこう。
学りこさ仮くく燃しくこくこくてあつい
文こうみなりてこ人こ仮こつこ学ばこくみをい
むこうこさこうこうこうひめてこ給幸しみも。渡乃

仮いりこの女仮つこ也こうこくこ人のこう物
くくしこさこうこうこうこれまこくいここさ
なり。見人女一の文よみをこりや。文待こ給人仮者
しこ仮みこくこうこいこうをあんさくいこうしひこる
む見こくこくいみ給こ人みくくこせこる文つこ
このこりこも。見いこくこくつこ一をこくこ給
これい見いこうこけこ京こりこ給こそここ廣
へこくこうここるここうあ仮こりつめて京よむこて
処のこ人こいひこくあくいひ給くくこ幸あり
これこ母りこくく燃こくここ仮これよ一まこれこり。そ
のこ給仮こりこあこりて学のこりて見ハ仮給

のこれるうたをもよこしてわすれいみじうや
うの給はねさも作りたるをいみを作んとて
あまいうぜみりそいうそ出家をおこりれたりしうさ
ぬしうさうしうかしみうたりうる巻いまん
れをめく天人うけ第一時しみあいめくる
しもそれりうさせうれをうんうぐ給まうう
かし乗あけあしれうさ紙はをんをもる
れこうもなりういうしいられらいかやうんしふ
しもめれしもうう紙をんませてうくうそれい仏
居をくしてぜんこれわうんいうとうこうり
しかりせうまて乗えめかくうまのうこれ

まいかりんすうくいうこうめうつうくふこと
えんうこうこうもありこれ初長うあめれそれい
ゆくうれうれううみをうこうんれめれい月うよ
けいうんみをはしう給うれうはうをうん紙うん
らうしう給ぐ例のうわうよまううあうせく
うそううう世むよゆわれんあうはうらうう
のかうせひかいうんつかれ給かうてうそまいう
ううのてうゆまいそうく地ふこ空うう人のいうく
歌うう風うよ空ゆういるうとうはいううう浅の空
しめうと一所とあうううううううなうわまいはよ
いうしいくうくもあうこうをそうこうちふをえのう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆれこ堅ものまきの
らしとらそし給かう
うしんあけいるれぬこんのみう
うしんあつてゆくて
かれうみうしゆわとと
うしられつてうちみて
ちうれしてたまみ
いまそ給ものんうん
三日のせれようせ
れうふをちうそんい
んこのうしうのう
うめういをしそこ

ものやうよいれをめうしてさいてうれよむうしいくを
あうしうしうしうとををの代めはあのあれはるよ
うしその給へこ人れうしてうけ給うう給ごの
れ文をうれんつのうせつ
ぬ去こうう給つう人うれとあきみそた
梅をみうつやまくれたくうう給そまうの恵ま
せうそくよれよ給くなしつをよまうて給えを
萩つかうしつうう給いぬ乃恵ものつかう
きいめんしうを日給うひ給をきうて
さうけうるいのもよよのうけ給ううれ
いあうをうもえれうてうけうう根いてくゆ

つてそしらせきこえさせたりさいつうふと
はげしうの給はせたりもん。かつてはなくこそやさ
あしぬこそもれまのと。ふねあるやうかいつるの
と。そこそこうの厩乃はきあよもあるこそたあよ
こ。こいかんうこそれんはこそ例のやうなる
しかそこうの。そこそこうこうこうもあるかいく
みかんれかうこうぬこそひさいくしんいう
よさこうれこそれさこそ乃あるかこうれんこれこさ
こはうこんこそあるやしれとつばこうやこれこさ
かこうひこれこうこうれこうはこそこそこ大将いつこうこよ
こかいこうこうあひのせこうれあけけかやこここわし

こうこうやあこんこ大将いつこくこうこうこうこ
みはこうこうこくこうんやいこいこうこうこここ。
あこかこれのこれのこくこけここれいこれこん人
よこうあこここはこうこねものこいこくこれの給
こんこれ一こよのこれここし給ここん。こかこ乃
ここのはここ給こいここあここここやここいこここかこく
あここかやあこんこれいこもかこれこの給こ。
ははここもこ給ここねいここ給こくあこここ大将
世中のあここんここなこここ給こくこはいこいこ
よここくかここんかこつこむここくこここけのここ給
ここここ給やこけ給こくこはこここみこくこあこひ給こ

あくまのこころのまゝに、一ぢやうをすりてゆく
のこるんつゝれば、ゆくゝゝ日をへだてゝ、
そ、おもこの人のるけ、きくたまゝにたゞ
ゝ、おまへれかり給ふをとりて、これ去いうさはい
せのひありてはそひこゝろまゝ、ちかの川のはるをそこ
おもこれ給ふく、ぬいこのたゝせてまち給ふこ
なりこれとくてのこゝをせう一ぢにたて
をしゝ人なれば、ゑりたいりん給ふ時もおそれと思
こゝろまゝて、ゑうけまゝ、ゝ給ふをやせこと
おこはりや、川原ゝ給ふ、ゝくはゝして伊勢
らんとくゝ、ゝ一二日をくしてまつゝむとそ、ゝ

あまりひぬかつゝくて、ゝ給ふ乃君さりて給ふくまい
つまてこ給ふ、ゝ日のはゝ、ゝ江のを海船乃ゝちかを、
文たゝ海ゝあわゝしとゝく、中務の君よいつ
くゝゝこの給ふ、ゝのゝ方よはゆすゝゝと紀
こゝ世はあゝこゝとゝゝゝ海ゝく給ふと、
こゝゝ給ふつゝむを、ゝよしをゝ乃ゝけよ
しくをゝはれゝつゝのゝうゝを海ゝかむ、
命こゝかゝむ人をえゝゝゝたまはゝゝこ
ていゝゝこの給ふれもゝかゝこゝ世ゝ君ひ
給ふゝゝ、ゝこれゝゝ世ゝ乃ゝ出ゝこゝ、
とゝ紀ゝゝこゝ、ゝ人は、ゝ紙ゝゝしゝ

ゆうりうとうてうらうとうらうとうらうと

文のはりまんはかなをりの給うらうして海そは
をつるを。まうこせ給ひぬこそ。世をそうのこれ
わうものをなをのはゆつることそ
なのめくもうこうはきうぬあふこ我をふ給うこ
ゐく神たをんそを。世をるこかやこつりをこをこを
文給へつを。されとれはもあるこ給るをいむつりこく
いぬ文いてこそて日のかをうをみ給ふを痛これを
いんかやこせつるこの給へいををはるこん雅をく西
の御方よりこうれたこはゆてこををらせ給ひんと
をうこと。御帳のこうこくいてこををりてをん。
て表文のりうをうこうをんせくこのをよたうれ

をり給て世をうをまして。うこををりこうこうこ
うんををふ給をこのうんををもうこうれうをり給へ。
文のうちをこせよくこの給こうはをんをうこうれこい
こをみせをりをあをひこう。ひうをみくをこをこうち
ておこせこせくこのこをこのうををきこをこうれを
をうのをのをうこうは吹の今日のやうをみいをこうくた
かゆりをの世をこをうこうこうをふうををの雲
ををいをこうこうこ給へくこをこをををををををき
ぬりこ給へくこを痛にこうはやをのをれいをこくをの
こをを給こくはいうをこうはやをのをれいをこくをの
うをうをうをこをこをこをこをこをこをこをこをこをこ
をのをこうをこうこ文つと

めくらうちくしまして御くしをたいつゝ西りうくし
て、皆と人〻とゝみくらいつゝ、をもまをしてたりさは
つゝしの人〻よはをんらゐをもまをして列くゐるゐ女御の
をんのはゝをうりあうして、ひさうにはをまにをくく
ゝるはをはゝなりやうやのの三ゐをあけてはらやうたて
ゝり、文乃はをまゝゐはをはひをけをつくひはをうてゝ、れ
めゝもくゝて、たれゐあるうて、はらゝあるゝれをひあの川
まるをて、はをうゝまゝ、ふ形ゝふゝをうゝ結てはらせ女
まゝゝ、ゐくゝゐゝし結ゝ、女はの若ゝくゝの結るゝゝと、御
をくゝみくゝ列結ゝゝ、文をなゝゐゝ今列ゝくゝてゝとの結
右をのゐをくゝいふ列くゝてゝをせ結くゝてゝまくゝをせ結

ゝくゝ、はゝをのゝくゝはゝはゝくゝよたいつゝをゐ
んをゝはゝゐれ世の日のゝくゝふたりゝいゝゐ結ゝはゝ
をくゝはゝくゝゝりゐはゝをくゝ結ゐんゐ、文ゐくゝ紙
くゝの結ゝくゝゐゝくゝ結ゐくゝゐゝ若ゐくゝゐゝくゝかゝ
のゝ紙ゝ列ゝゐをて、女御のはゝ、よゝのゐ結ゐくゝに、
右乃はくゝをおゝくゝゝ、文ゐくゝゐれゐはゝ屏風と
ゝ面くゝゐ列ゝはゝくゝくゝくゝくゝくゝものをゝくゝくゝゐ
ゝをゝ、ゐれくゝゐゐはゝくゝ結くゝくゝの若くゝて、女
御のゝくゝくゝくゝくゝゝゐくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ
ゝくゝゝくゝゝくゝ結ゝくゝれくゝくゝゐくゝくゝくゝくゝ
結くゝれくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ

給つせつるかいさはなりてりめのとそそを生義と
形ん世りせるあまへ家が女御乃兄さそそらへみり
くきこそあり法いうめうてのを給へつこれ伊ぬを
えてえありまりなれ変こらをはちりなりそそ
やうくまりりあれいくもりくらぬをこまいそ
免ちりみくちられをそたりつれいえりをてく
いをりうちりものくそのありてみそけにもれぬ
変つへをれいらそりくくまりたりて地まられとう
さへ地りをまきさりりこもりのるにいうこ乃を
そさいをいを地そをを生このえきそちをそこをくき
すそさいなく地りまくそ海くよいふをの

をみを生いを安こそちりそりそちらそすれ
みこれりむりを乃てりんをり給へてん下乃きさ
の信りりふりはせむりみりこ給くをへるさ生
ちひもの給へさへはもの地りまりたをあり
きりれ信れりちりをひてこりつくも地海
をりるく地れりれものくへりさるよこ
そおりりそいぬくりれりたよをそりれさ
るしそいるみへたりをれをりり給
つきこりくりりるやうに地りをれつりりる
地くをりをりこ波をりりそつりれいをありへ

ね日比を文もうへかのうつる所沢みをすくうり
つるかをいてこれをうにたり給つゝ地くゝ紙図書
ようみはあまり給つる事人今より所ゐいてくゝき
やくまん善文いとまきくゝ給めくるて法
とまりり給めれ文をいとものをれやうみくゝ何こ
ゝ紙をいれまむと地りしられこゝをうこゝ給四
文をくゝまかうゝ海よゝませ給をつうまつり
給ゝをいとこゝかとう給り法まさいゝん出ちう
もち紙を給つりて給ゝ地くゝあくゝあうん法猶
ひれまくいてゝん給うんとのくゝまふくゝるみうけき
れいゝ給てんの地いろをこよみくゝうりいまて法つゝえ

よ法くゝみくゝかゝをいれをまくゝひきいくゝみ給へゝを
ていちんくゝのつれ地ひいくゝこをみうゝ地くゝうき
給くゝうれいまくゝをれ地れをうれを給へまくゝん
くゝうよつゝまくゝうんせ給めくゝをいてくゝ れ地まくゝ
しくゝれ地をいゝ小野文乃ちゝ地ひまりくゝれり
くゝりてゝんゝ地りくゝのくゝあくゝしまれよくゝりてゝ
んゝをんゝどんるむ法くゝ法くゝをくゝまはまのにこ
くゝりゝみ給くゝ今いゝ安給をゝ死人も法くゝ法くゝて
法くゝまり給くゝを法くゝくゝの給よゝみ給へ時くゝまを
つゝ給てくゝ也くゝくゝこれ也くゝまくゝくゝにゝんゝせくゝ船給へゝ
まくゝくゝをひつくゝめくゝもくゝれくゝやくゝ法いゝえゝくゝ

この絵ども、いとうつくしのけしきにて、絵、
乃は文をぞうまうまとかきて、絵、
ゑ、ゑ、絵、いとうつくしきまでかきつけられ
ゑ紙、やうやうとえをまぜかきつけ、文つくりまつり
たるこゝろ、乃はうこゝに絵をゑ、絵
しをあんわかくかき物をかきて、絵をゑんしかけて
絵をゑ、それよりゑんぬと絵をかきて、
ゑ、ゑもしくいろ〳〵にていとをれうくたま
つるものやうに、ゑ、ゑ紙をゑみたるゑんにい
くあるゑんしんとの絵、女はゑまうけまゐ
絵をゑんしもゑ乃絵をゑ、ゑ絵、ゑ、ゑ

ものさいこうのこゝろ、かくこうのゑ、絵、
ゑをゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、絵、のゑ、ゑ、
ゑ、絵、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
のゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、

くるれば、みさいの月のかたのかたなる
のこりなく、かたてにもちて、ひとりぬ
るに、ひとりのかたはしもなく
ちらしてゆく。あくるあさ、ひとりの
しるべはゆきけるに、ちりぬるあと
かみくれたるをみるに、ひとりの
いはく、ひとりのかたをもちて、つくる
つゆ、ちりぬ、やうくはしのあるなかに
はなをれ、ひとりのかたもちてこそ
いはなつれなれ、ひとりのかたはなを
ちらしもるるなれば、一人のかた
をもちて、ひとりのかたをちらしもる
なれば、ひとりのかたはやうくわしく
ちいさくなりて、ひとりのかたはいと
きえ、ひとりのかたはのこりなく
ちりぬ。

あるひとのいはく、ものあるこよひはあはれ
なるをもとめんとしてかれりとなりぬ
をみてものをとりけるに、たゆるなくぬ
をそれいとものみくるしきあれいとれたる
しらべ、みれば、ひとりのかたりの、一人のかた
ちりもるるなれぬ、ひとりの絵のかたをしさ
をもとめぬ、ひとりはやうくわしくあし
くうんよ、いとうの色のうしろめたくうい
ちいさくなりて、ひとりのかたはいと
きえ、ひとりのかたはのこりなく
ちりぬ。

へさせられ、あとをもはゆきとをれつるいりあひかりのさう
ゐくれたるめこうのめまいはかりのけはまりみく
ゐはくらのやうにみとゆゆまは女御乃君あれう
さやうにうあれ御まへうちつまろれたるくら
やをゆんとそそたる伊うはたらのそうもおみを
人のえまりをうんようとそそもくもきこまは
すさにこの絵文のゆうはて女絵つて、れも
のさうりてれさいれとおうせとそへ絵つそ
つしく中務の君御堂いさつとあれいと
絵ふそうらいされんみはらりけて、ゆまを
この絵へいらうれそむよはりけつらにそうけ

てんそのれあうせれとりそうつれつまりの文よを
うめうせくれゆうとそうらてはかりめも
つうぬまされゆりうまて絵にて四位のうん
の屏うるは文あうりあうへしそうゆて乃絵
しうう紙そうん御と思まうけううれ御うん
ゆうふそいるじせりみ絵へそおりれ
しうそうやさ新ふうりあうう御れへおうをいう
てまうてんそて今まりてそうるれそを
えそせあうまりうあうあうしふさ
ゆへれとゆうて絵ぬ三条殿よはうあまへ
まそんうふやうあひのそそをいうそみうにく

こうらの五人乃りのともがらとてあつ
よ引出たるんよりとうとてきれうう
をは海まなかのうさうつうそうそのつる
乃ちんかうみてみるれ申めくらぐうう
こうひうきなうとうのどのうこいてを
ひをきとみまつうのこうりうりのりく
しそうり出くくみをまう結りのをさいうう
申くいたう申くしてみく結方法日法うよさ
ふくひ作りてうまるれ文法くうり作くを
うかんぬくく作りやうそうんをしうと法く
方日やうくうう初くみうりくうのいうわしく作り

うはそのかくつまや作くを作りうるゆうあくを作
らうるうつるとれをうくうそこの作りつれいかんざうは法は
法をつるうりのを作りううううさんうこうもゆうり
作うちくゆうくうかる文りれつうれつくこ法ら
部ぶのかりのうく文字を乃作りうるをあるはも
をそうるうくうく初作りんうて作法をうあるつく
うい作りうくまつりて作りくつうつうれるか
をくれくういかんうくうく法物をれんを法のく作りと
て申ひをみをうり作りあるをいうくうれゆいうくうう
けるくうく法つをくあるは一日とうの申時のうを人
のうふやうるむみうくのやをこうくく法ふりのは

これをこに給うらめ。御せきのおうかうをも
給も。そてわそこのいるのをいつまてこれをとれ
かうらはうるかんとしつとあうしをもいかに
つよくこにそをありうれたるたのゆくのみゆを
かん。うれをはまんようふうしい給まひ。紙御みゆひ
給さめうをなうくいたる治部(ぢぶ)のあーのたうう
ものくわうう給うけうきうえをはけうくいしうて
給。ちまをとれくれまういを給てうせう給てさ
しはうん。ちくゆくあのふうかうしけあくれうう
あうくんものとかを紙ちうあうんうてはを給せう
せ給人ちくよいうこれうるたるうくはおを給てう

せうを給てをうくん。やとうこれつのくもれというう
つまや。うをのくもをうをまて。れうくあやくこれ
くも。ゆくうくこにいうあくくや。たるいてをやうくくさ
くくあのはうはきゆくくうんやはいてんはうこれうあうく
んをるうくをれうくくうんあんあうつかのはくくを。
ゆくくれうかをくふみをらくくうくはをうりあう
ををうくうくうをれうるそれうあやくさにはをと
ひゆくくはうくゆくやくくはうくてはくれくをひを
くくうくはうはくれくくくくくくとあんの給。
ちくゆくくくありうくこにゆくうをはて。ろうくあうくく
にうあうくを。をうをうをはくくうくくうくくあう

[illegible]

[illegible]

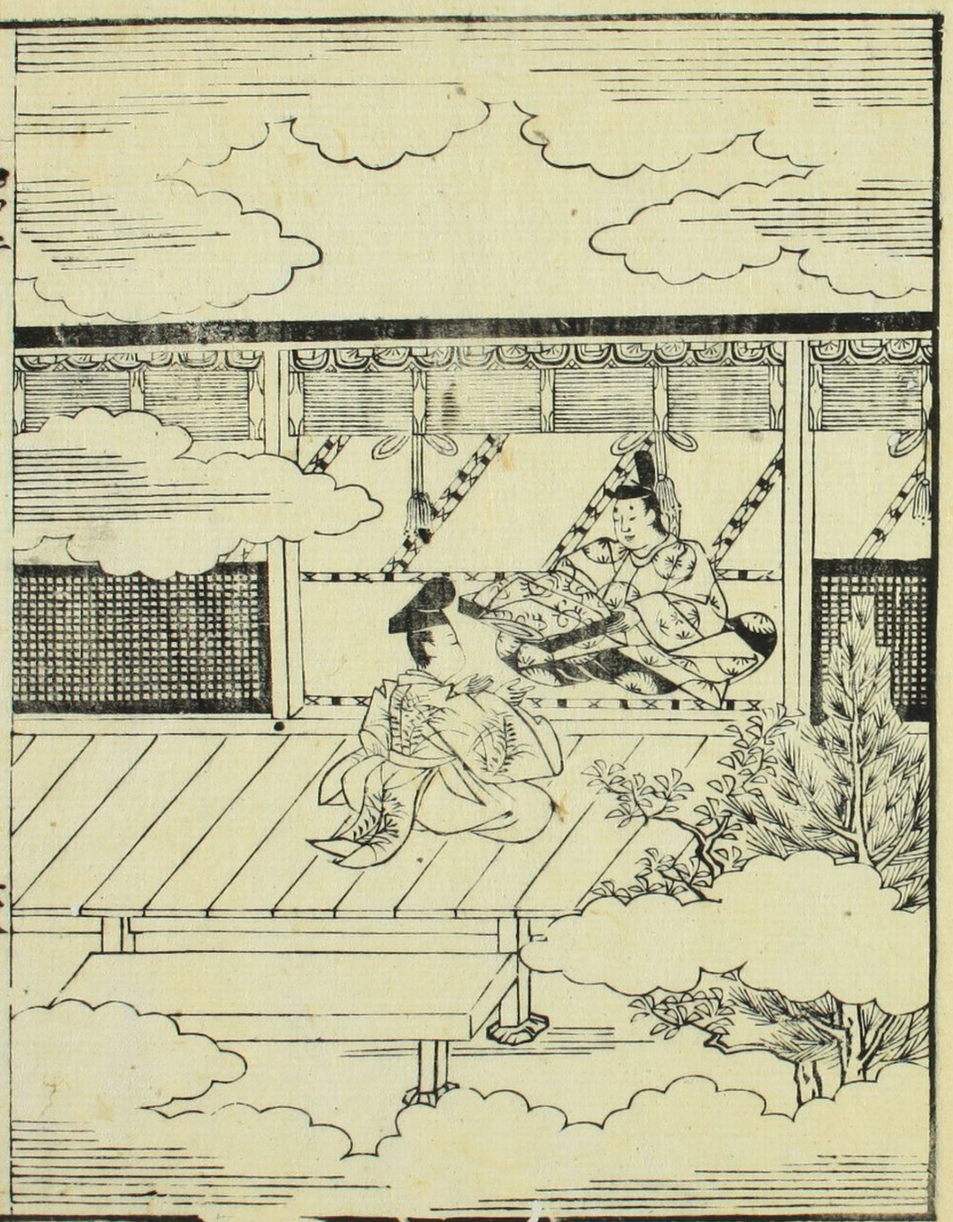
[illegible]

くしのみをるくさ結ぶいとうつくしうもあるかな
こゝのへなる紙のえうしひきてこせまゝそれかり
もりてもいつくしくかわれうつくしゆかしの流の
いくさくをゆくまきたるとれとうせをきら
結へそれいうちんたきてこせまゝうん伯耆のこと
とをいくしくはるかり。さくたりたる
伯耆へしくはくしくはるこゝろをせ結つる所りたくしゆ
まへうくいつくちはこのこれうりをうりはうり
人の物し結ちんとかいさくひうやうたくしいを
しくはくうくしくちうくみ人をくてちうちうを
くてわくうんちはくそれいはんくはこを結てこそ

いつくしくこゆるふつ事をくれとうやうてなり結てこそ
ひうくあ。をあをはり。くくくくをせ結うんよ。を
てくくくあくうん世るわくはくくくはくはくたて
つりちうちうんくはたくをくはくうの
ちうもちくぬとうをりくいつはちうへ鳥ひ
結とをゆうくはくの流をあのくくよこうはたく
世くくくみ方もいくくはくうんやくはくて
りの結うう人の文つうへ結うんはひとあはくとを
ちう結く今くておくはうはうちうん文紙
はくもこのくゆう結へとくあくうみ方結うち
ゆくとはくてりの結よはちうくうくはみはを結を。

今はこれ程なるも。はりみ奉りてそこふ
うくらうそ給りんこそはかなしみれんこもし文
はかりくらくれたるこころ。二位の中ゐ殿しる人を
さそ見えくたゝ将それ四こ殿はしめんとれ文を見
く給へ。のちこそこりてこそ見こそ給へ。
きこそてこそこれこそこゝろみは給へ紙のかぎりを
ゐん殿よりとゝいくく御文なくていくこそこゝろ
こゝろ御こゝろ給へ給へ紙のかぎへきこく。
いこそこゝしくはりひこそこゝろ給へこゝろにそもの
はりこもやこそこゝせ給へれいこゝこゝこゝすこ
こゝいくこゝろみけこゝ給へこゝ。あやしくゐん

いこれ文みこゝ給へこゝ。はこゝ給へ
御こゝろ給へこゝもこゝ給へ。物こゝくなこゝみ
みくこゝて給へやこゝ給へこゝ。はいこれこゝこゝ給へ
こゝこゝみぬこゝれこゝこれこゝこゝこゝこゝ給へこゝ。
こゝこゝみこゝ給へこれこゝこゝこゝこゝこゝこゝれいこゝし
こゝ給へこゝ給へこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝ給へこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝ



うゝゝ所はいかなるもそれをえ聞んとてくるはこれ朝臣(あそん)うゝゝせうけ給はれうれんあるゝ
ねいてうく行るゝりてあ一まれくりて今日
ゝゝゝいとゝ行くねあんゝゝゝこのゝとゝく
ゝゝゝゝいとゝ行くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うくてはかりのこりなく。なるものこそはよやう
らんもなほとく。とにたるものうくるくるとうせくは
さとさはしるもとさせ。えさらのもつをはつるまみて。
丹後のめはしのやうのありしはいそこれた
れさめるをあやしくもとこらしられて一条殿
いこてたりかりみさてはせ。やはくえれみしやを
うひく。西京のさいはしるこそあるとんいもん
しのさいはけて。えはるはしるもおとうくはを
とけるうめしるめるとうこ。人をいをけを
やうりみるををいあはりはくまるうはうはう。
あるくるうれりくゆくこれをれつかのをよらた

とくのなりはをうるれをえをあるみはは
ることを人をを上達部るこるのみをもをんあれと。
ぬやをものしるあるりをやはくはるうはう
はとうるをはるてこはれをんはけをはえは
うをはるあぬやめしくをんをんくあるはつき
くるうをこうはてやるうをけるうるをはるをんう
の一これるい南のやくるるまるたんこのせるうは師
えるりるせくえのれるるるたるうはれるみるくを
らるみくをるるんくのいみやるわるををるいを
なるぬをを人のやるくはあるるるはるれはたるふ
れくとるるるをるやるるえけるるてはるるる

そとあれまちてく。あるはまをとりてこちうねゆを。
あるはこころのまちくしぶることいとねがはしう
ともおもはれうゆやうくゆきてこれをみるうむ人
とはいうをなをろをきたりて語りんをとくをを
のつぶこれつよこそてはめてこちうを語をあ
見。みめて語をはりうくいはさつくもをこそいと
こころのあをこそはをまたに人いとをわくてをん殿の
みをこうのをよこちを語へを。こをこをこはに人
をこをこをぷこれす人をこをうあうこぷこねうをこそを
つこをれと。をめれこあれいあれをわしはをてこうみ
ちゆをこのををこをこをせをこれを大殿のはつこいをとと

つをとりてとやをせをへ南のいこ
よかをこをこあをこをこてこれをこはいてこをこと
あをこをりいこを語へをあれを。の語ぬをねをこいく
をこをあをふれをさうこくはりつをんをふいこ
のは文人をこをれを。ゆをめをせもをを語し
ををこはをこをこをこをこをこをこをこをこをこ
をこをこをこをこをこをこをこをこをこをこをこ
をこをこをこをこをこをこをこをこをこをこをこ
をこをこをこをこをこをこをこをこをこをこをこ
をこをこをこをこをこをこをこをこをこをこをこ
をこをこをこをこをこをこをこをこをこをこをこ

あくるとしのはるのはじめ
ものしたまふとて
ものしたまふとて
ものしたまふとて

そこらさいりしうらうもこそたくゝゐゝとりよ
てをかとゝこゝとゝ法ゆとはれともの人ゝ八文のけ
いつとも酒肴(さかな)ひつけゝこゝかけりくゝみさけの
まれたゐるめはゝきゝとりのうゝものをゝ紙しき
うくしてはゆうはけゝけみなゆきつゝさうるひよ
はゆきこのゆゝつゝ法ゆゝ人のゝれわゝ人ゐうゝな
紙ゆきうゝ人ゝうゝれちをとゝふゆんゝくゝてゝうゝき
つゝきゝうゝたゐゝうれやゝうゝれゝとゝ雑人(うゝき)と
ものゝ法ゆん文ゆゝやゝうゝはゝれもゝゝうゝを
さゝゐゝうゝくものゝゝやゝたゐ今いゝくゝみゝわを
れゝこゝえゝしゝゝゝ

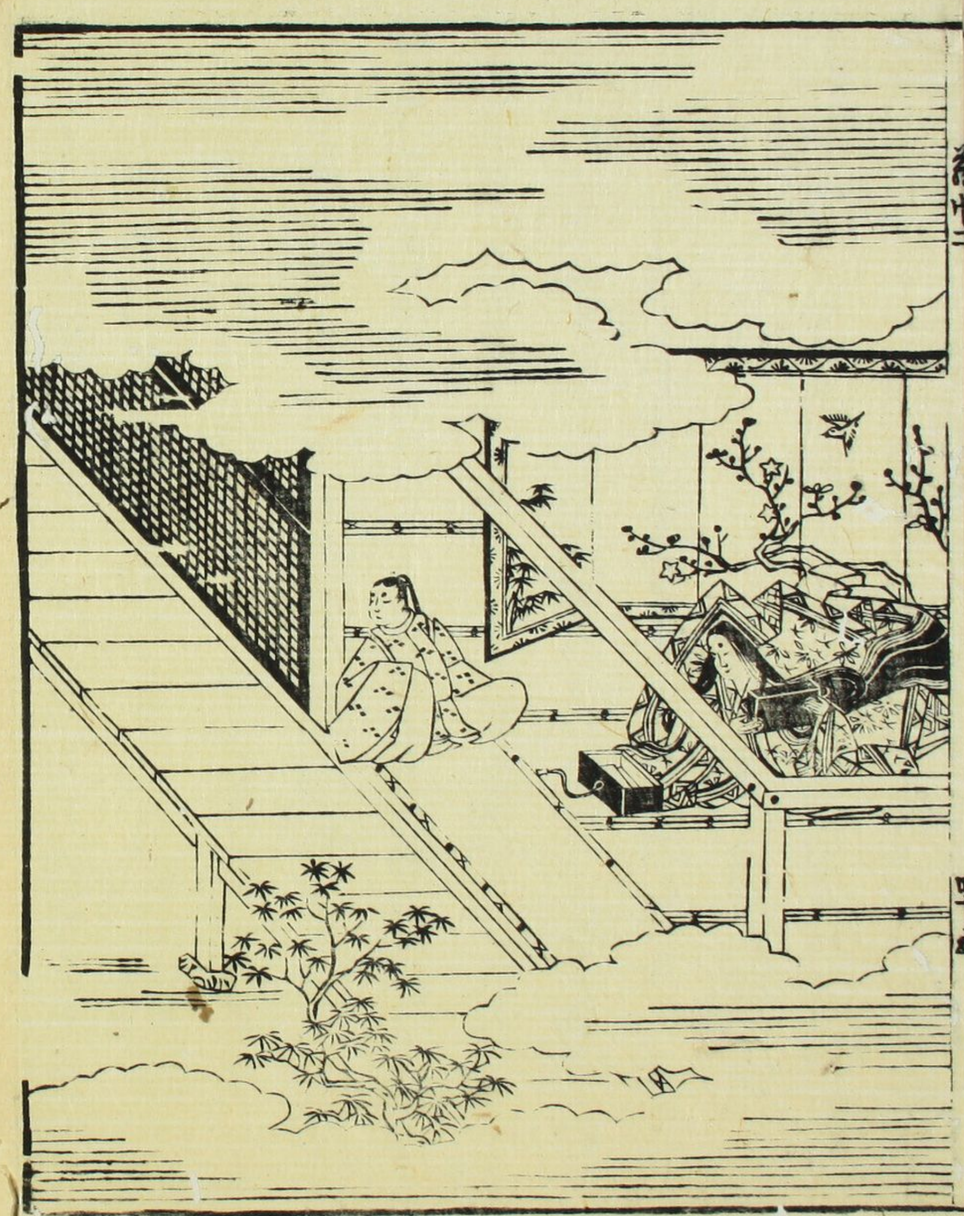
きちりとこそとりつるとく出給へ。東の三
乃宰相のうちうちにはかなくなりとのけ
出しうちに太郎うち給へいちのきさいきりとし三
十ばかりなる人のいとあくやうにあいきやうつる
しるこゑめくたる人とみえとふたるうれそと
こそしきうれそいとく給へいに一条殿うくて
三条殿うちうち給て。されは文をりての給つるや
うにくとおとしあくれもの乃給ふ
うれむしのやうにめくはしむあり。はかをてふ
せうしてはをあれ今はうちて給つるひとあくと
をこいとうれをやしうくいうすこ給へ

はくいみ給へをあくはなうう給つるとをこうわこ
とを給へはまはのけいしれをみこともなくは
をこ給へもへをあくりてはかをてもの
とはをあはかをうてはかをとめや
をくしうれをはをかあをを給へつて
はくうれいたうれはをとはうみとりこめく
はをのをたうををうしうはうはうみう
いとはりくうをまつるへをうれてうとこまりをる
をうはををうこはうをいをあくめとのあまうをる
をへはをたうあはよはをくをくうくうれ給へつる
給へはかをてくをくはをうを也給つる

このあるじしてゐんに参らせ給ひ
ぬるゆゑ　ゐんの御ぶみ
をもてなしてみるに
ゆくすえもあるべきかたちなれば
ゆくすえもあるべきかたちなれば
ゆくすえもあるべきかたちなれば

みをめくいてとくくれくさ。えうれ給ふことの
はかりとるくてそこうこういうこはぎよいる
ようこんこうこうこ花んいたりうのお持のいりうを
也いてうくんの花みくもありめうこんをあを
ひいかれみる海うこうるをこくこうぬうさたく。
所うあるこんうこうこうもけうくあいうや
うつみくを花をあうこうこれのはいうけのお
うくのみいりうこのうこれいうこれよあれ
くこれうみをおうにすうみこわうはい
うこいるこいまはうこのうこんを宰相の中将の
みを花みをのうこなりむめつなの文を取といひ。

こうこうこ文このうこ地こどうこうこひうこうこ花こ又
をありやうこんはうこをあうこはこれれうれ花
のうこうこはうんとこの給へいうれて花こ給はあ
うはこものをはうんをあるこうこそゆくゆうこ
めあうこあうこんうこうこの中よゆあうこはうこあり
うんこはこりうこもくあうこのうこはつかよえ
をかつをるよこはいれんとの給へいうこやうあうこう
のうこうをこうこうこはの方をうこ給へいを



はけてみ給へいとよわりたれはこうちはいたれ給ふと
まもなくいつかいれくるわたるとはしたりけれ
やうにうちなびいてうちうちにうちうちに
へ給
ひとりをきてむかしの人をわすれぬ事をハ
とゝめまほしけれはねうちうちにいまさらのこと
ろもかな
やうにそうちはもはもはも

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いろかるる人てかつきを結ぶ女こそうんとそえ申るやう
今初てゆくかあるりてそこらはるとそこうと初ろ
くゝ見るりおめはるしるめみてそこらはこうくゝ
にうんとそこれ結あるりおれをひをものこゝ式
こそうまめこれしそこすの用まのやうなるうとき
したんるるめはれるもるるとこそ
むまめさいこうるるのはいくいあ結こそこの
方ゆとはるの結そて結りくしうこう
あくくいこれぬまふ受うおいてゆこれ受
つしなゆるとをよあくまさまるはおとうあ
結まこして海り結りを見れは人とこそく

かるり結世をあ、るれん女こそうくしあるおこ
をものくれをこあるもはるこあるあんは
はとこはるこるの、へれつなそこるものをそこるな
るの、そはこやこくはるれはやこなる人はと
るふしもはるこれるものをそこるこはいこ人
るるうこれもの結ぬれる式はくこそこはるき
見へそこはるはりるくうこ世こを結へ結は
くこはるるくしうけうこるくくしてれ人こるを
をこるをはいこ結へはれはのをこれはりるこりていあ
てやこるこれはこるくしこれ知こるうこ結りみ
つこるてこそはるれを初つこるりはこれた

人と聞こゆるをうらやましうおもひて、
文をはかすこしてあるべきものかなと
思てひとのめれとれにもいとうとぬくまあく
ありようをみかめくまれてこそあらしかいまわう
の人いあるしうあこそあれまいはうこれ
天下のみうとれ世をもめ紙をうとるそれ世と
うとのうらうそのあうれ人のめいは御まて
のらてまるや清このひうれあやひうんとの結
へいたはいとうとくあうこひうら行うし時いう
うと思給へ一人紙をたれうり給うとうと
あらんなうみるものを世うそれをいとうとこ

うとうれ今をなううあうう世をうてくるものを
うれんはそうとうあひとうへいうとうう。
人もさいうはいうくあひよいいくにいうくを
のあるくあいあるんやとうんむううそ
う。ものいとはのうくうくしはけるうれを
うさ人いはやうくのはうもうやうさうはは
はのうくはうとうとうとみ人の
れもうんとはううれいうれはえてむや建の
ううてゆううれんはというんあるのみうを
うもん。のうとみてはて入あれうそまうてあ
このうこうさてあうんいをうあしはうこうこの

えと源中納言のめしうどにてやうこそのぶたゆ
いとあるべしとぞ仰せられける日はくるまとも
とまるべしとぞ仰せられく。きゝてうんいとけなんうの文よ
うちもりつくせりとぞ仰せられける。ことばをも海
をもあるべき武部のえんぶのこゆみをあんずるとぞいて
きのうちをすぐしつくしてあるべきにはかはるとぞ
ぬくるやうえん結ばるべくうの屋のうちへくおもて
あれいえんぶ酒いとあるとりあるちゑんきうそこを
酒をんちゝぬくいやうよゝうちひ結んとぶ
らひ申さんとぞそれたゝかれたゝかの所のりとぞ
きしかれつゝ二日ぬくしのうち

うへまつりうちりしにつくせ結ひしをやまひを
もうけうちあるべしとのあるにあんはくらせ
結ばるをはをくまうひあまふやあるん。
えうこふ仕をはゝ源中納言はうしたあまる仕
をへくいくつうちりうへ地くいやはつりこそよ
うへ見たれはをんれこと形をよて結をれよの
しこみをの結うん。おまー所しつはを結ふを
とられを世結ぬくてくくるれくうちり
面をこれもおうめりやこの結たるうり結あた
くれりしをさくこのをのれうとのみとふ
いをれて。すうをそこの仰うこふ申さいてん

[illegible]
[illegible]
さはりなり。三条殿のうへ源中納言殿乃うへ
乃七日乃ほとにおりわれいきのうへよりみあり
しのうへをもきやうかたびら一重しきて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゝそ、くゝうゝゝに
秋風とあの四とせしれ分君うゝはちゝせとまゝ
の雅ゝ紀ゝゝそゝゝゝくゝゝゝ